

つくしんぼう

第19号
令和7年3月
＜編集発行＞
新城市小中学校
PTA連絡協議会
(事務局)
教育委員会生涯共育課
0536-23-7639

共に過ごし 共に学び 共に育つ



新城市小中学校PTA連絡協議会機関紙

CONTENTS

P.02 会長あいさつ

令和6年度の主な行事

P.03～06 特集記事「研修・講演会参加報告」

P.07・08 タブレットアートコンテスト

P.09～13 地域・学校の特色のある活動

P.14 令和6年度役員・理事紹介

笑顔の先に☆

新城市小中学校PTA連絡協議会
会長 原 留衣



日頃よりPTA活動にご理解ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

【笑う門には福来る】いつも明るく朗らかでいれば、おのずと幸せが訪れる。

子どもたちは、時代とともに情報量も増え、大人以上に忙しい日々を過ごしているのではと感じます。その中でも、元気に笑顔で過ごす姿からは、幸せのパワーがみなぎり、傍で過ごす私たち大人へ福を運んでくれているように思います。成長する過程で、様々な出来事や感情に葛藤し、もがく時期も必ず訪れます。その時大人は、そっと優しく笑顔で寄り添うことで、子どもたちは安心して成長していけるのでしょうか。笑顔の先には幸せの魔法が広がる。私自身、そう感じながら過ごしています。

近年、PTAの在り方について、問われる内容や解散のニュースがあがることも増えています。しかしながら、愛知県（三河・尾張）小中学校PTA連絡協議会を基に、各郡市小中学校PTA連絡協議会、各校単位PTAが成り立ち、県全体で支え合うことで子どもたちを守りながら安心して活動を行うことができます。PTAは大切な組織であると共に、優しさから生まれた組織ではないかと思っています。「子どもと家庭、本職を一番に、その次にPTA活動を」が大切なキーワードのようにも感じています。

今年度から事業の一環として学校給食センターを運営するための三つの委員会へ、各校理事の方々と共に参加をしました。子どもたちの学校給食を私たち保護者も身近に関わることができ、とても良い機会に感じています。市P連が市内全小中学校PTAの架け橋組織として、活動していけるよう役員一同精進して参りますので、今後もよろしくお願いいたします。

令和6年度の主な行事

月 日	場 所	行 事 名
5月11日(土)	新城文化会館	新城市小中学校PTA連絡協議会総会
6月4日(火)	刈谷市総合文化センター	三河小中学校PTA連絡協議会定期総会
6月11日(火)	愛知芸術文化センター	愛知県小中学校PTA連絡協議会年次総会
7月18日(木)	愛知県教育会館	愛知県小中学校PTA連絡協議会家庭教育委員研修会
8月23日(金) 8月24日(土)	神奈川県川崎市	第72回日本PTA全国研究大会川崎大会
9月7日(土)	新城文化会館	子どもの健やかな成長をねがう会
10月25日(金) 10月26日(土)	愛知県名古屋市中区公会堂ほか	第80回日本PTA東海北陸ブロック研究大会愛知大会
11月6日(水)	安城市へきしんギャラクシープラザ	三河小中学校PTA連絡協議情報交換会
1月19日(日)	とよね村民ホール	新城設楽地区情報交換事業

《特集記事》 研修・講演会参加報告

令和6年度に市P連役員が参加した研修や講演会の一部を紹介します。

報告①『子どもの健やかな成長をねがう会』(市P連会計：松下、市P連監事：古市)

この会は、新城市教員組合との共催事業として毎年開催されています。今年度は、9月7日(土)に、新城文化会館会議室にて開催され、テーマごとに、4つの分科会に分かれて、保護者の方々と教員とがさまざまな意見交換をしました。今回はその中から2つのテーマについてご紹介いたします。

◆第1分科会テーマ「子どもと学習環境の変化」

①タブレット端末活用の利点や課題について

②子どもを自律した学習者として育てるために我々ができること

の2点について教員と保護者がディスカッションを行い、双方にとって実りのある会になりました。

新城市がタブレット学習を始めて4年目を迎えました。授業や家庭学習でタブレット端末を利用する機会が増え、現在では約8割の教員が当たり前のように利用しています。実際、児童・生徒は授業でも自分のペースで学習を進めたり、何度も問題を解くことが出来ると、タブレット学習の魅力を感じる生徒も多くいます。また、市内の42%の生徒がタブレット端末を毎日持ち帰り、今後もさらに増えていくことが想定されます。しかし、私たち保護者は、小中学生の頃の学習方法とはかなり変化しているため、不安や戸惑いも多いと思います。まずは、保護者がこういった変化を知ろうとすることが大切だという意見もあり、子どもたちが楽しく学び、知識を増やすためには、教員だけではなく保護者のサポートも欠かせないと感じました。

教員の皆様も試行錯誤しながら、子どもたちのために1番に思い、指導してくださっていることをこの会を通して改めて知ることができました。心から感謝いたします。いつもありがとうございます。

◆第4分科会テーマ「子どもと地域のつながり」

「まとめとして、まずは、私たち自身が楽しんで地域を知り、子どもたちに伝えていきましょう」。

第4分科会では、地域ごとに行われているイベントやお薦めの地域活動、そして新城市の良さや魅力を広げるために私たちは何ができるのかについて意見交換を行いました。子どもが参加している地域活動では、盆踊り、子ども会行事、プレーパークなどのほか、地域の方が教えてくれる祭り囃子や舞、歌舞伎、ダンスや和太鼓などが挙げられました。

また、2024新城教育アンケートでは、地域行事に一つも参加しなかった理由として「知らなかったから」が約7割を占めていたことから、学校から校区内行事を紹介する行事予定表や案内を配布できるとよい、といった意見がありました。先生方からは、「子どもたちは学校で、地域の良いところ、好きなところを誇らし気に話してくれる」とのお話がありました。学校では、地域学習もしっかり取り入れてくださり、先生方は、異動のあいさつなどで「〇〇(校区)のここが好きだった」などと子どものたちの前でお話されています。「私は長年ここに暮らし、良いところ、好きなところもあるが、それを子どもたちに伝えているだろうか」。

「地域社会は、『社会への第一歩として人間関係の基本を身につける大切な場』であるといわれています」(学びネットあいち「輝けあいちっ子」より)。これからも子どもたちの地域社会への参加の機会を用意したい、そして、私自身が楽しんでいる姿を少しでも多く子どもたちに見せたいと思います。

報告②『教育講演会』(市P連副会長：阿部)

父母と教師の教育を語る会の教育講演会が9月18日(水)に開催され、参加させていただきました。講師にお笑い芸人の千原せいじさんを迎え、演題を「世界から見た日本」としてお話を聞くことが出来ました。せいじさんはお笑い芸人ということもあり、終始笑いを交えながら和やかな雰囲気の中での講演が行われました。せいじさんはテレビ番組の企画等でこれまでに70カ国以上を訪問し、持ち前の卓越したコミュニケーション力に定評があります。第一声、「見たこと、感じたことを話す」と前置きののち世界各地を訪れ得たことをお話しいただきました。沢山の経験をお話しいただいた中からいくつか紹介致します。

- ・「自分たちの服などを送ってもゴミ！」日本では着なくなった服などを支援が必要な地域へ送る活動がされていますが、実際に現地では、集まった衣類が山の様に積まれていて、処理するにも人手がかかる。崩れてきた衣類の下敷きになって亡くなった事例もある様です。自分たちは持っているから、持っていない人がかわいそうというのは、思い込みということ。
- ・森の中の学校でコンクリートの小屋がいくつも点在しているが使われていない。世界各国からの支援で建造されている小屋が実際は作っただけでほったらかし状態。この事実を知らないだけでも罪！
- ・北欧の800年前の学校を訪問。その学校には石像があり、生徒が上、先生が下に位置していた。日本では先生が上で生徒を引き上げる考えが一般的だが、訪問先の文化では、先生が下で生徒を持ち上げる意味の配置がなされていることに驚きを覚えたそうです。
- ・タイの電車では優先席の表示の中に子どもも含まれている。子どもの頃から譲られているから大人になってから自然と譲る習慣が身についている。

講演の中でせいじさんから「成功の反対はなんだか分かりますか？」と質問がありました。答えは「何もしないこと」。成功の反対は失敗ではなく、失敗を恐れて何も行動を起こさないことであると仰っていました。

今回の講演会を聞いて、何事もまずは挑戦してみることに挑戦することによって得られた体験は、人生にとって大切なことであり、自分自身の可能性を広げるのだと感じました。

人によって感じ方は違っても、体験に勝るものはなく、まずは一步踏み出してみることを子どもたちにすすめていきたいと思います。



報告③『第80回日本PTA東海北陸ブロック研究大会愛知大会』

(市P連会計：鈴木)

10月25日(金)・26日(土)に開催された第80回東海北陸ブロック研究大会愛知大会へ参加させていただきました。東海・北陸地区の代表PTAによる発表がありました。

福井県福井市立殿下小学校による『殿下校思い出ツナグプロジェクト』児童減少による閉校となった悲しみを希望に変えるため、地区の各種団体・卒業生やPTAそのOBが地域で新たなプロジェクト組織を編成し、さまざまな企画から未来へ思い出を繋いでいく活動の話を聞きました。

また、愛知県豊田市飯野小学校による『手軽なPTA活動を目指して』PTA各活動の大きな課題となっている、役員及び各委員の選出をしやすくするためのPTA各活動の見直しを行った話を聞きました。飯野小学校では、役員の負担軽減や、役員免除となる明確な基準を作成したことで令和6年度の役員は全て立候補で決定したそうです。

2校の発表を聞かせて頂き、地方のPTAが抱える問題や課題はおそらく同じだと思いました。私たち新城市の小中学校も同じ問題や課題を抱えているので、とても参考になりました。

また、講演もあり『アドラー式子育て』アドラー心理学をベースとした子育てプログラムの講演では、講師の方や他の参加者との実演も行いアドラー式子育てを体験させていただきました。とても有意義な講演会であったことと、実演では、市P連の原留衣会長が素晴らしい実演を披露したことにより新城市のPTAがこの愛知大会に爪痕を残せたと思います。

(市P連書記：夏目)

「誇りを胸に笑顔繋ぐ心の輪-輝く未来であるために-」第80回日本PTA東海北陸ブロック研究大会 愛知大会が10月25日(金)、26日(土)愛知県で6つの分科会に分かれて開催され、講演者と保護者の方々と意見交換をしました。その中の第1分科会は〈家庭教育A〉愛知県豊田市飯野小学校PTA「手軽なPTA活動を目指して～負担なく・無理なく簡単に～」というテーマでした。PTA活動の問題について、毎年役員選出で必ず揉めるなど、活動内容というよりも役員・委員になりたくないという問題が大きいこと、活動内容が認知されていないこと、年間活動が多く負担が大きいことなどで、PTA役員への希望者が少なく、存続すらできなくなっているのではと危機感を感じていました。見直した活動内容を聞いて、現に、私たちも無駄な行事や負担になっていることも多くあり、更には複雑な引継ぎ資料になっていたことにも気づきました。PTAは地域・学校・家庭を結び、子どもを育てる大切な活動であるために、役員さんたちで今できることを意見交換していきたいです。



報告④『第74次教育研究愛知県集会』(市P連会長：原)

10月19日(土)、愛知県産業労働センターにて第74次教育研究愛知県集会が行われ、先生方と共に参加をしてきました。県内各地の教職員の方々により、子ども一人ひとりの意欲を大切に、学校や地域の特色を生かす様々な工夫を凝らした教育実践が21の分科会で発表されていました。鳳来中・原先生の理科教育の発表では、地区の魅力を多く感じている生徒さんたちの気持ちを汲み取り、鳳来地区の岩石や地形をもとに様々な追及活動を実践した報告内容で、私たちが凄く夢中になる内容でした。時代のニーズに合わせた教育プログラムを日々取り入れ授業が行われていることが多くわかり、先生方への感謝の気持ちが深まると同時に、とても刺激的な時間を過ごし感慨深い一日となりました。



報告⑤ 給食センター運営に関する各委員会について

学校給食センターを運営するための3委員会への参加報告

今年度9月から学校給食センターの稼働開始に伴い、市P連事業の一環として役員・理事の方々と共に3委員会(給食センター運営委員会、献立委員会、物資選定委員会)への参加を開始しました。

10月に参加した理事2名の声をお届けします。

・東郷西小学校理事：加藤尚子さん

献立委員会へ、市職員、栄養教諭、校長、教育委員会教諭など様々な立場の方達の中で、保護者代表という立場で出席をしました。栄養教諭の先生方が1-3月の献立をプレゼンし、栄養・地産食材・季節のイベント料理が考えられていました。実際に参加したことで、工夫を凝らした美味しい給食が安心安全に提供されていることがわかり、感謝の気持ちが深まると共に、心から安心することができました。

・作手中学校理事：太田幸江さん

物資選定委員会へ参加をしました。1階食堂にて、焼き魚、焼き豆腐などの各社サンプルを価格の比較や特色を楽しみながら試食しました。人伝えではなく、我が身をもって実感することで、多くの大切なことに気がつくので、たくさんの方々に体験してほしいと思いました。生産者さんの努力やこだわりにも目を向け、食育へと繋げていただくと更に嬉しいです。

全ての役員・理事の方々の声が掲載できないのが残念ですが、実際に参加した方の意見は、私たちが一番身近に感じることのできる大切な声だと感じています。今後も安心の深まる事業に繋がっていければ幸いです。



タブレット アート コンテスト



新城市ホームページ

昨年度に引き続き、本年度も市P連と市教育委員会の共催事業としてタブレットアートコンテストを開催しました。「ここが大好き♡新城」をテーマに、市内の小中学生から作品を募集しました。多くの素晴らしい作品の応募があり、応募総数274作品の中から審査の結果、入賞4作品、入選12作品が決定しました。入賞作品や入選作品は、市のホームページでもご覧いただけます。

入賞作品

教育長賞



「この空とサギソウ高原」

小林 瑠華さん（作手小学校5年生）

～教育長講評～

作手の澄んだ空とサギソウが咲く高原。幻想的な世界が描かれています。

会長賞



「しんしろのとよ川」

吉田 佐羽さん（作手小学校1年生）

～会長講評～

心の輝きまで感じる素敵な絵に一瞬にして惹かれました。

つくしんぼう賞



「わたしのだいすきなさくらぶちこうえん」

今泉智彩香さん（東郷西小学校1年生）

つくしんぼう賞



「田町川の岸边にて」

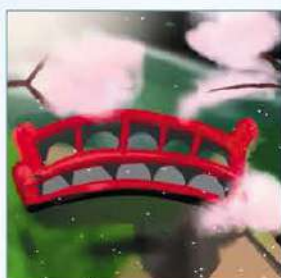
滝川結季音さん（東郷中学校1年生）

入選作品



「思いやりに溢れてるこの町」

本田 結香さん
(千郷小学校4年生)



「桜淵公園 赤い橋」

安田 稜心さん
(八名小学校4年生)



「モリアオガエル」

工藤 わこさん
(鳳来東小学校4年生)



「甘くて美味しい作手のイチゴ」

南部 紗和さん
(作手小学校4年生)



「自分の大好きな場所」

長坂 はなさん
(作手小学校4年生)



「美しい星空」

滝川日葵花さん
(新城小学校5年生)



「作手の日没」

前田 羽菜さん
(作手小学校5年生)



「太鼓橋と桜」

伊東 瑞稀さん
(千郷小学校6年生)



「ポカポカ新城」

野澤 音羽さん
(東郷東小学校6年生)



「阿寺の七滝」

上野 杏莉さん
(東陽小学校6年生)



「桜の咲く桜淵」

洞口 彩里さん
(作手小学校6年生)



「大好きな新城市～歴史と自然～」

伊藤 実結さん
(東郷中学校2年生)

地域・学校の特色ある活動

市内を4つのエリアに分け、各エリアの地域や学校の様々な活動を紹介します。伝統行事や思い出に残る行事、各地域や各校の特色を活かした活動の中で、子どもたちや家族の皆さんが共に過ごし、共に学び、共に育つ「共育」を実践しています。

新城・東郷エリア「新中学区特集～協同・地域連携・継承～」

新城中学校では、毎年学年を超えた仲間との絆を深めようと、全校交流会が開催されています。今年は1年生から3年生までが縦割り班に分かれ、学校全体を使ったかくれんぼをしたり、全校ウルトラクイズに挑戦したりしました。

私がこの会の様子をティーズで見て、素晴らしいと感じたところは、学年を超えた交流が自然に生まれていたことです。普段はあまり接点のない上級生と下級生が協力し合い、楽しそうに活動していた姿は、まさに学校全体が一つになっていると感じました。全校かくれんぼでは、子どもたちが一生懸命に隠れ場所を探し、見つけた時の笑顔がとても輝いていました。また、全校ウルトラクイズでは、趣向を凝らした珍問、難問に互いに教え合って挑戦する姿が見られ、学びの場としても素晴らしい機会だったと思います。

この素晴らしい交流会を企画・運営したのは生徒会の皆さんでした。これからも彼らの努力と創意工夫により、子どもたちがより一層仲良くなり、学校生活がさらに充実したものになることを願っています。



舟着小学校では、地域の方の協力をいただき、毎年3年生がぶどう作りをしています。

6月、子どもたちは一房ずつ、丁寧に袋をかぶせ、夏の間は欠かさず水やりをしました。

9月、今年も立派な巨峰を収穫することができました。全校に振舞われ、どの子も「甘くておいしい！」と大喜びでした。



新城小学校の本年度の運動会は、5年ぶりに全校が一堂に会し半日を過ごす運動会となりました。種目や参加の仕方についても見直しが行われ、その種目の中に「鈴割り」がありました。5年前のプログラムをみると「決戦！しろあとの戦い」とあり、女子が行う「亀姫物語」とともに運動会のフィナーレを飾る種目となっていました。

9月に入り鈴割りの準備が始まりました。地域・保護者の協力を得て、予行練習用と本番用の2回にわたり竹を切り出しました。



運動会前日の準備では、午後から教員と高学年の子どもたちで準備を進め、下校時間に合わせPTA委員が集合。5年ぶりに会場にテントが並び、鈴割り用の竹の設置を行いました。

運動会当日、来校された6年生の親御さんからは「久しぶりの光景ですね、ぐっときました」とお話しただいた方も見えました。6年生の代表児童のあいさつから始まり、全校でのよさこい、徒競走と続き、次は「かわいいかけっこ」。来年度新城小学校へ入学する予定の子どもたちのかけっこです。この種目は前年度PTA委員からの要望もあり、5年ぶりに復活した種目の一つです。集まった子どもたちの親御さんの中には新城小学校に初めて来る方もいらっしゃいました。運動会の注目種目の一つ8の字跳びでは、全校が一堂に会して参加した競技です。どのチームもこれまでの練習の成果を発揮し、優勝チームは150回以上も跳ぶことができました。最後の種目は1～3年生のしっぽとり、4～6年生の鈴割りです。会場全体が興奮の渦に包まれる中、5年ぶりの鈴割りは白組の勝利でフィナーレをむかえ、閉会式を迎えた子どもたちはとても良い顔をしていました。子どもたちそして保護者の熱い気持ちのこもった運動会となり、新たな伝統として今後も続いていくことを切に願います。



千郷・八名エリア「ちさと納涼夏祭り初開催」

千郷地区では、今年度初めてのちさと納涼夏祭りを開催いたしました。主催のteam Chisatoの代表である長坂徹也さんに寄稿していただきました。



ちさと納涼夏祭り。

「ちさと納涼夏祭り」の開催をふりかえり



去る7月20日、千郷地域初となる「ちさと納涼夏祭り」を開催いたしました。昔から、「千郷地域」は、新城でも最大の人口を有する地域です。過去には住民運動会や盆踊りなどの催し、また小中学校の運動会ですら「必ず10/10体育の日（旧）」に合同で行われるのが当たり前、とにかく「ちさとのみんなで一緒に」と自治体規模の大きなイベントを開催しているのが常識である地域でした。集客、参加者の減少、開催労力の問題、感染症、い

ろいろなことが重なり、それらのイベントは全て無くなりました。「人はいるのに何も無い地域」になったのが近況の千郷地域なのだと私自身思います。「まずはこの千郷で開催してみること、やってみれば分かる」ただそれだけで「ちさと納涼夏祭り」を開催いたしました。この開催により、「ちさとの大いなる可能性」を私を含めた関係者、来場してくれた人、諸団体が目撃したはずで

す。今回はPTA機関紙へ寄稿、ということですので…千郷中学校の独自制度「Chisaボラ」についても述べることにします。「Chisaボラ」は地域活動からの要請に対し、生徒の中から任意ボランティア活動を募集する制度なのですが、我々team Chisatoも準備段階からこの制度を利用させていただきました。今回は我々の企画内にあった「脱出ゲーム」「きもだめし」での準備、実行アシスタントの位置づけで募集をいたしましたが、早期から多くのご参加、準備を行い、当日はイベント進行の大きな助力となっていただきました。この多数のChisaボラさんたちも、私から見たら「ちさとの大いなる可能性」そのものでした。実は新城有教館高校からも10名ほどのボランティアに来ていただいています^^

今回は我々の企画内容に沿っていただきましたが、これからちさとイベントには、生徒さん自身がやりたい企画をteam Chisatoへ持ち込んで団体参加する、そんな未来を期待しています。ボランティアさんだけでなく、当日集った非常にたくさん子どもたち、大人含めた来場者、参加団体…あの場所を体験した老若男女全てが「ちさとの可能性」です。そして、この可能性を皆が目撃しました。もっともらしく言われる「地域間交流」「世代間交流」「国際間交流」は、この下地がないと無理なことです。

最後に、来場だけでなく「自分たちも人前でやりたいことが出来る」、そんな有志意識を千郷の人たちには「改めて」持ってもらいたい。千郷にはお客、観客はいるのだから。これこそが、今の千郷に欠けているものであり、今後のイベント活動を通じて育てたい「地域、人、感性」と考えています。

ちさとの子どもたちは「ちさとのこれから」そのものなのです。



鳳来エリア「地域とともに豊かな学び」

鳳来寺小学校では、放課後活動として地域の方を講師に迎え、ダンス、バドミントン、スケートボード、自然観察、茶道食育体験などを行っています。これらの活動は、保護者や地域の方と共に過ごし、共に学び、共に育つことを目的に年間を通して行い、児童の豊かな学びと子育て支援、そして地域の活性化に繋がっています。



校外での学びとして、保存会の方から稲作について学び、実際に四谷千枚田の一角をお借りして田植えから稲刈りまでを行い、収穫したお米を自分たちで炊いて食べる体験をしました。実際に自分たちが口にすることがどのような工程で作られるのか学ぶことができました。学区内を流れる海老川にて、漁協組合の方により川に関する注意点や、住んでいる魚などについて講話してもらいました。その後、実際に川に入って泳ぎ、どんな魚がいるか観察して上流域での生態系などについて学びました。たくさんの方の講師による教えにより、普段は経験できないことも体験でき、ふるさとを知り、ふるさとに触れることで、ふるさとの魅力を今一度、認識することができています。このように地域と密着した体験を通して、子どもたちの豊かな学ぶ心が育まれています。



東陽小学校では、児童が地域の人、名物、魅力、歴史を知ることによって地域に愛着をもち、地域を自慢できるように、いろいろな行事を行っています。その中で「ふるさとウォーキング」は、全校児童を縦割り班10グループに分け、上級生が下級生の面倒を見ながら行う行事です。3つのコースがあり、年度ごとにローテーションで実施しています。今年は鳳来寺山表参道を登るコースでした。PTA役員や教職員がコースにまつわる歴史や背景をポイントごとにクイズとして出題し、班のメンバーは相談しながら答えていき、正解数を競い合います。

ほかに、「ふるさと教室」も実施しています。地域の様々な技能・知識を持った方々を講師としてお招きし、その中から児童が興味のあるものを選択して受講します。ダンスやグラウンドゴルフ、糸まんだら、切り絵、地域の散策や料理など、様々な分野の講座の中から好きなものを選んだり、チャレンジしたりする中で、児童は自分らしさを発揮しています。学校現場では児童減少によってコミュニケーション能力が不足がちになっていますが、こうした体験活動は、児童が円満な人間関係を構築し、人格形成を行っていくことにつながっているように思えます。また、郷土の歴史や文化、いろいろな知識や技能を持った地域の方々を知見することにより、児童が人生設計の選択肢を少しでも増やし、心身ともに成長をしていくことを願っています。郷土の歴史・文化・自然・人を愛する心を育むことは、過疎化や限界・消滅集落といった深刻な課題に対しても、前向きに対応していくことのできる地域になるのではないかと考えています。

児童の未来に期待します！



作手エリア「学校と地域、人と人、私たちはつなぐ架け橋」

作手小学校では、環境整備と学習支援のボランティアをさせていただける方を募集しました。その名も「作手小サポート隊」。PTA会員だけではなく、地域の方、作手で働く方、児童など幅広く募集をしたところ、大変多くの方にご協力いただいています。



【サポート隊によるペンキ塗り】

保護者から「環境整備のお手伝いを有志で参加するので声をかけてください」という意見があり、4つの小学校が統合してから初めて実施することができました。

1学期の終業式の午後、校内のワックスがけやペンキ塗り、校庭の草刈りなどの作業を、大人と児童が協力し合いながら進めました。また、2学期末には、大掃除週間を5日間設け、保護者には、無理なく参加可能な日に来てくださいと声をかけ、児童と校内大掃除をしました。



【作手小サポート隊（環境整備）】

学習支援についても、児童と普段から顔を合わせている地域の方に生活や学習の補助に入っていただくこともあります。児童が嬉しそうに元気に挨拶したり、わからないところを聞いたりする様子も見ることができました。それぞれの活動に参加した方からは、「孫が在籍はしているものの、校舎も新しくなり立ち寄る機会も少なかったが、今回作業に参加したことで自分たちの地域の小学校と感ずるようになった」「コロナの流行により行事が減ったため、久しぶりに会えた人もいた。参加して良かった」といった声もありました。「作手小サポート隊」の活動が、PTAと地域と学校を、人と人とを繋ぐものになると期待し、今後も活動を広げていきます。



【作手小サポート隊（学習支援）】

作手中学校では昨年度から空き缶回収を行なっています。生徒会で「やりたいと思う活動ができるように自分たちで資金を集めよう！」そんなひと声から始まりました。生徒数の減少がこんな所にも影響しているのです。毎年、夏休み最後の土曜に予定されているPTA奉仕作業日に合わせて実施します。生徒が自ら進んで活動する姿を目にして、頼もしさを感じ、保護者もサポートに力が入ります。たくさん集まった空き缶に目を輝かせたのは生徒たちだけでは



なかったと思います。作業日だけでなく日常的に回収場所を設置し、いつでも空き缶を持ち込むことができます。その結果、今回の回収で21,340円を集めることができました。この資金をどんな活動へ繋げるのか？「みんなのためにできること」とは何か？「みんなのために役立てたい」生徒たちの優しい気持ちが地域の方々にも伝わったのか、多くの方が空き缶回収を気にかけて協力してくださっています。

私たち保護者は地域と学校を繋げる役割を担っています。少子化が進むなか、子どもの声が地域を元気にしていると実感します。子どもたちの成長に後押しされ、またひとつ作手地区の絆が深まる機会となりました。地域とのふれあいを大切にしながら、発想豊かな子どもたちと成長し続けていくことを楽しみにしています。

令和6年度 役員・理事 紹介

= 役 員 =

会 長：原 留衣（新城中）
 副会長：阿部 誠（千郷中） 永田 千尋（東郷西小） 岡田 高明（千郷小）
 書 記：夏目 一俊（八名中） 原田 佳絵（鳳来中）
 会 計：松下 領治（作手小） 鈴木 元紀（新城中）
 監 事：古市 杏奈（千郷小） 織田 康恵（東郷中）
 顧 問：齊藤 竜也

= 理 事 =

☆新城中学校区☆ 関原 浩樹（新城小） 夏目 紀之（舟着小） 木内 允仁（新城中）
 ☆千郷中学校区☆ 五十嵐哲也（千郷小） 尾崎 昌世（千郷中）
 ☆東郷中学校区☆ 加藤 尚子（東郷西小） 望月 隆男（東郷東小） 坂本 果枝（東郷中）
 ☆八名中学校区☆ 加藤 友士（八名小） 松井 寛（庭野小） 田中 宏尚（八名中）
 ☆鳳来中学校区☆ 鈴木 真生（鳳来中部小） 熊谷 智和（鳳来寺小） 豊田 博啓（黄柳川小）
 小野田 斉（東陽小） 中村 元彦（鳳来東小） 平田 晃（鳳来中）
 ☆作手中学校区☆ 菅沼 正光（作手小） 太田 幸江（作手中）

編集後記：役員からひとこと

- ☆ 研修や講習会の参加など貴重な体験をさせていただきました。事務局の皆様、他役員の方たちと協力し合い、楽しく参加できました。ありがとうございました。（副会長・阿部）
- ☆ 最初は何も分からず不安を持っていましたが、市P連を通じて様々な方と交流ができたことで視野が広がり、有意義なものとなりました。ありがとうございました。（副会長・永田）
- ☆ 市P連の役員の方々が、活動がより良いものになるように、真剣に取り組まれていたことがとても印象に残りました。原会長をリーダーとして、役員が団結して活動ができました。（副会長・岡田）
- ☆ 市P連活動の中でタブレットアートがあり多くの作品が集まりました。今後の活動でも子どもたちが楽しめる企画が増えていくことを願っています。（書記・夏目）
- ☆ ダンボール会議を取り入れるなど工夫をしてくれたので楽しく情報交換が出来ました。しかし、今後市P連活動の見直し、改善は必要だとも思います。（書記・原田）
- ☆ 「PTAとは何か」、「市P連は何をすべきか」、役員の方々の意見を聞き、じっくりと考える機会となりました。これからの活動に生かしていきたいと思います。（会計・松下）
- ☆ 当初に心配したほどの負担もなく、他の役員さんにも助けていただき充実した活動を一年させていただけたことに感謝いたします、ありがとうございました。（会計・鈴木）
- ☆ 市P連の活動を通し、子育てにさらに向き合うことが出来ました。子どもたちの未来は必ず明るいと信じています。（監事・古市）
- ☆ 市P連に参加させていただき、大変勉強になりました。仲間に恵まれ楽しく活動できたことに感謝です。（監事・織田）